

Q： With コロナ・After コロナでは、健康に対する市場ニーズに対応した素材提供や、ラクト・ジャパン独自の安定したサプライチェーンを背景としたシェア拡大がキーポイントだと説明があったが、実際に種まきの成果として見えてきているものや施策に対する手ごたえなどはあるか。中長期的なトップライン成長の目線に変化はないか。

A： 今後の健康志向訴求に対応するために、新事業部を今年3月に立ち上げた。現状はまだ種まき段階ではあるが、上期のコロナ禍の中でもいくつか新しい芽が出てきている。こうした芽をひとつひとつ育てていきたい。コロナ禍において一番影響を受けているのは新規取引に向けた働きかけだが、新事業部も意欲的に展開しているので来期以降は結果が出るものと期待している。

中期計画については、ただ今ご説明した新規事業と、拡大しているアジア事業を成長の牽引役とし、国内事業とあわせて達成を目指していきたい。

Q： 新規事業の来期業績への影響は？

A： 来期業績への影響としてはまだそれほど大きくない。中期的には利益貢献に期待している。

Q： 今後出てくるコロナ禍による懸念材料について。食肉加工品事業に関しては産地生産に関する懸念という話があったが、乳原料についてそのような懸念は無いのか。

A： コロナ禍が今後どうなるかが見通せず申し上げにくいですが、再流行により行動制限措置が取られた場合、学校給食の停止や外食等の消費が落ち込み、再度国内の生乳在庫が余剰となる可能性があり、これが懸念となる。また、小売市場の動向も懸念材料。一方、乳原料・チーズに関しては、世界各国で農業保護の処置なども取られており、産地（供給）に関する懸念は今のところ特にない。

Q： 小売市場での消費動向を踏まえ、中長期的な国内の乳原料需要について見通しは変わらないか。戦略の見直しの必要はないか。

A： 踊り場にあったヨーグルト需要は再度拡大傾向。その他の乳製品についても需要の収縮を考えにくく、拡大余地があると考えている。価格競争力を考えても、輸入乳原料への需要は引き続き強いと考えている。

Q： シンガポール工場の生産能力増強時期が来期にずれ込むとのことだが、その要因と時期は？

A： 増強に向けて予定通り工事を開始したが、コロナ禍によるロックダウンの影響で工事が遅れた。影響は今のところ、数カ月程度で済むと予想している。増強による今期の業績への影響はもともと見込んでいなかったため、今期予想は当初の通り。工事の遅れは来期初頭には解消する予定。中期計画には影響はない。

Q： 上期は、食肉加工品の調達に問題はなかったとの説明があった。今後、コロナ禍の影響などにより調達先の工場が止まった場合、自国内への供給が優先となり輸出量が制限される懸念はないか。

A： 対応は各社各様であるが、当社のサプライヤーは輸出比率が高いところが多く、日本向けの輸出を止める懸念は少ないだろう。ただし、日本向けについては細かな作業工程があり、そういった商品は一部供給が絞られる可能性もある。

以上

本資料は、フェアディスクロージャーの観点から、決算説明会の質疑応答をもとに作成しております。内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部で加筆・修正しております。また、その情報の正確性・完全性を担保するものではなく、今後予告なく変更される可能性がありますことをご承知おきください。